

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

（EKUTEBIAN-VOL.2, NOVEMBER 1986-EKUTEBIAN）

11

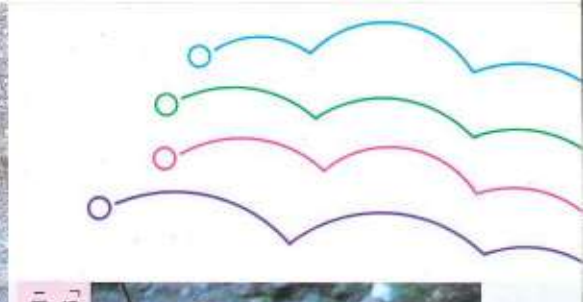


まい ぶらんと・「菊花」by 立川菊花愛好会



立川釣友会々長
岩本親男さん

毎年、秋になると「立川釣友会」(会長・岩本親男さん)が一般募集をして、秋川へ紅鯉の釣りにつれていってくださいます。楽しいです。釣れて釣れて困るほどの人、また一匹も釣れない人。ここにも世の中の「縮図」がありました。ハイ。



「オッ」と釣れたはいけどハリはずしが、またメンドーで



「空気はおいしいし、水はきれいだし、のんびりやりましょうや」

「ほーら、ジツとがまんして、ニンタイですよ、釣は」



「釣はクチじゃないよ、ジツセキですよ」ベテランはちがうなあ。

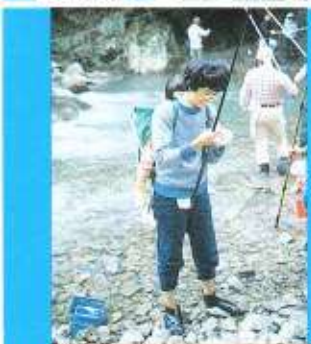


キマッてますねえ、右の人。釣果もあるし。



「やったね、軽い、軽い」のVサイン

「私たちのとこ、よけてるのかしら、お魚」



伊東茂、都志子ご夫妻。好きな道とはいえ、やっぱり、赤ちゃん背中じゃタイヘンだわ。



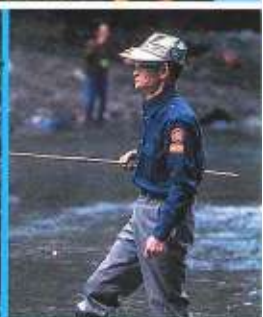
「今夜のオカズにしようね、お母さん」



錦町の高橋五郎さん、「風格」ですなあ。



釣師としてカンペキのスタイル、松浦勝雄さん。



釣師の表情もここまでくれば、小林茂さん。

寺田悦子ピアノリサイタル
《モーツァルトとショパンの夕べ》
10/20 PM
映画
ビルマの堅琴
上映会
10/26 PM
川崎市市民会館大ホール
入場券は同会館および市内
各プレイガイドにて

たけなご
この伝言は十月十九日て消します。

カイロプラクティック+東洋医学
+各種最新リハビリ &
ゲルマニウム経絡温浴治療
ニュー立川治療院
現在、阪球団トレーナーや
元・球団トレーナーが治療
にあたります。
院長 黒正次 (いすけりも 水田公説)
副院長 乙黒直次 (トレーナー)

定期演奏会
11月24日(日)
PM 3:00開演
立川青年会議所
大ホール
入場無料
主催：立川青年会議所
協賛：立川市市民会館
TEL 0425-22-1111

藤原由紀乃ピアノリサイタル
11/22(金)
PM 6:30
立川青年会議所
大ホール
入場券 2,000円
10歳以下 1,000円
本会協賛の立川青年会議所大ホールにて
お問い合わせは(40) 8572
TEL 0425-22-1111

オリジナルデザインの
ファッションアクセサリー!!
TEL 0425-22-4444

“老いてなお輝く生”
長寿社会フェア
立川青年会議所が主催

好き嫌いの問題では、ない。高齢化社会は加速度をつけて、現代を覆おうとしている。おもえば、人類は長寿をどんなに望んできたことか。そして日本人の平均寿命は年をおうことに伸び続けてきている。うれしい反面、いろいろな問題が出てきているのも事実。ここに眼をつけた立川青年会議所は、去る10月11日・12日の両日「長寿社会フェア」を開催(於・ウィルホール、各方面に反響をよんだ。なかでも、老人問題の専門家、さらには若年層の参加が目立

ついでだ。「長寿」というテーマを追いかけながら、実は「生」そのものの価値観を問う、奥行き深いフェアとなったようだ。
奥行きは深さでは、写真家・田邊順一氏による「老い」の連作が光っていた。同氏は老人や農村をテーマに作品を発表してきているフリー・カメラマン。
「年をいた顔や手に深く刻まれたシワの一本一本、シミの一つ一つ。老人たちとの出会いをくり返す中で、私はそれらがこの上なくいと美しくなっていた。そして美しいとさえ思った。それは彼らが生き証しであり、生きる辛さをのり越えてきた証しであった。いや、今もなお生きようとしてつづける人間の証しだと思えたからだ」

田邊氏がこう語る。老人群像は寡黙だが、静かに語りかけてくる人生の、通奏低音を聴くようにだ。
砂川蘭、至誠ホームによる「老人ホーム老人作品展」、さらには「老人による包丁研ぎサービス」も万国をわたるといった多彩ぶり。
このフェアの呼びかけに、愛のあるところから光がある「老いてなお輝く生」とあつたのが印象的。生命讃歌を高くかいたうたいあげようとする立川青年会議所に、立川市、国立市、武蔵村山市、東大和市から後援があつたことも付記しておこう。このフェアをどのように発展させるか、青年会議所の底力に期待は大きい。

写真展の他に、介護用品展示コーナー、老人サービス事業紹介相談コーナー、補聴器利用指導、老人食紹介など盛りだくさんのイベントで、来場者の興味をひいていた。
*
奥行きは深さでは、写真家・田邊順一氏による「老い」の連作が光っていた。同氏は老人や農村をテーマに作品を発表してきているフリー・カメラマン。
「年をいた顔や手に深く刻まれたシワの一本一本、シミの一つ一つ。老人たちとの出会いをくり返す中で、私はそれらがこの上なくいと美しくなっていた。そして美しいとさえ思った。それは彼らが生き証しであり、生きる辛さをのり越えてきた証しであった。いや、今もなお生きようとしてつづける人間の証しだと思えたからだ」

加えて万世敬老園、砂川蘭、至誠ホームによる「老人ホーム老人作品展」、さらには「老人による包丁研ぎサービス」も万国をわたるといった多彩ぶり。
このフェアの呼びかけに、愛のあるところから光がある「老いてなお輝く生」とあつたのが印象的。生命讃歌を高くかいたうたいあげようとする立川青年会議所に、立川市、国立市、武蔵村山市、東大和市から後援があつたことも付記しておこう。このフェアをどのように発展させるか、青年会議所の底力に期待は大きい。

真如苑だより
菊薫る秋と申しますが、もしかすると、今月の貴方は真如苑で薫るものを感じるかもしれせん。おでかけ下さい。
日時 11月16日(土)
午後2時から4時。
御本尊、真如宝物館のご案内をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■立川市民(成人)に限らせて頂きます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌を手渡してくれたい人へどうぞ。

紙は語る 佐藤豊壽さん
今月の表紙「菊花」はべつに佐藤さんの個人作品というわけではない。立川菊花愛好会々長として、マイクをむけてみた。
「会に入れて頂いて、11年目です。展示会となると、いつも緊張しますですね。研究、努力のほかに、運がモノをいいます。審査の日に咲き過ぎていたり、逆に間に合わなかったり。去年、優勝させて頂いたのも、好運のたまものです」
端正な物腰が人柄をあらわしているようだ。もともと、元は小学校の先生とか。
表紙の菊は手前が「細管咲開竜白雨」、中ほどが「間管岸の虹」じゃないですか、と即座に答えてくださる、さすがが。

いつでも、暮らしの友人。
出合いと永いおつきあいを大切に、皆さまの暮らしを、お手伝いします。
埼玉銀行

えくてびあん 豆事典
冬仕度
さまざまな実りを大満足に迎えた秋も終りに近づきました。そろそろ冬の子に感じを感し今のうちに寒さをしのぐ腹ごしらえをしておきたい冬の食欲の晩秋であります。冬の寒さをこえる為か昔から立川ではさまざまな行事がありました。
麦まきが終ると豊稔を祈願してうどんを太く打ち短かく切つて粥

美郷作品が放送劇に……
本誌連載中「立川の花」の山内美郷さん、こんどは自著「食卓のエッセイ」(新潮文庫版)がNHK-FMでドラマ化決定。板谷全子さんの脚本で、11月5日から全9回で放送されることになった。美郷さん、新分野へのはばたき!

立川クイズ
なに気なく歩いている「北口駅前広場歩道」カラー舗装なのを御存知ですか。ここはある曲をモチーフにした設計です。その曲とは、
①ベートーベンの「田園」
②シューベルトの「鱈」
③山田耕作的「からたちの花」

立川の花 水仙
本枯らしの吹く寒い夕方でした。街は殺風景で寒さむしっていました。そんな中で花屋の店先だけが、華やかに暖かそうに、冷えびえとした暗がりには浮かび上がっていました。まだ食べ物が食べられない彼女のために、肩のこらない愉快な本を三冊ばかり、見舞いの品として持つてはいましたが、何だか急に花を買いたくなって、その花屋に入つて行きました。
温度や湿度を一定に保っているのせいか、ガラス張りの部屋の中にはバラやランなどが美しく競うように並んでいました。そのとき、ひととき甘く優しい香りが私の体を包みました。それは、ひと抱えの水仙の放つ香りでした。水仙は安売りの値札を突き刺さるでも、そんなことにはおかない、誇り高く、品あふれる香りを漂わせていました。
御見舞いに香りの強い花は向いていないと知りながら、私は水仙をひと握り、ベットの上で笑っている友人に渡しました。水仙は、一瞬のうちに病院の陰気な薬臭を甘い香りに中に抱きしめるように吸い取って、知らん顔して彼女の胸に抱かれ、彼女の呼吸に合わせてかすかに揺れていました。

9月号クイズ 当籤者発表
9月号の右に描いた似顔絵、おぼえていただけますか?多くの応募を頂きましたが、驚くなかれ、正解者なし!間違いやすいところでは大山康晴さんが鈴木健二さん(NHKアナウンサー)に、山城新伍さんの「新伍」が「慎悟」に。
しかし本誌では正解に一番近い次の方に、残念賞(八角時計)をさし上げることにしました。
服部朋子さん(立川市錦町)おめでとうございませう。

月刊「えくてびあん」第16号
昭和六十一年十一月一日 発行
発行所 えくてびあん編集工房
東京都立川市栄町2-4-11
ファインビルディング 3F
電話 〇四二五〇〇82
編集人 立井啓介
発行人 沖野善男
印刷所 株式会社立川印刷所

工房から
●あなただけにソツとお教えしますけど、今年の12月12日から18日までの一週間、本誌主催により写真展「ベスト立川人'85」が駅ビル「ウィル9F」でおこなわれますよ。
●この一年、ユニークな活動で立川人たちの眼と心を愉しませてくださった人たちの功績を一同に集め、讃え、もう一度、立川人の悦びにしようという考えで、立川では初めての試みですが、思い切つてやらせて頂くことになりました。見に来て下さい。●たとえば、今月号の「街角の噂」にご登場いただきました石坂浩二さん。今年もまた、いまをトキメクスターたちが案外おおく立川におみえになります。そういう方のご協力も頂けることになっていきます。●有る程の「菊抛げ入れよ えくてびあん」

*10月・号の答
0425の市外局番は多摩地区の電話加入者の増加と共に昭和36年12月23日にスタートしました。答えは②です。
●あなただけにソツとお教えしますけど、今年の12月12日から18日までの一週間、本誌主催により写真展「ベスト立川人'85」が駅ビル「ウィル9F」でおこなわれますよ。
●この一年、ユニークな活動で立川人たちの眼と心を愉しませてくださった人たちの功績を一同に集め、讃え、もう一度、立川人の悦びにしようという考えで、立川では初めての試みですが、思い切つてやらせて頂くことになりました。見に来て下さい。●たとえば、今月号の「街角の噂」にご登場いただきました石坂浩二さん。今年もまた、いまをトキメクスターたちが案外おおく立川におみえになります。そういう方のご協力も頂けることになっていきます。●有る程の「菊抛げ入れよ えくてびあん」

街角の瞳

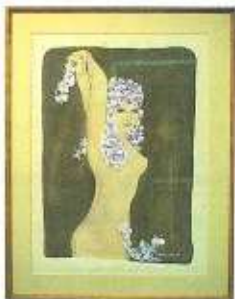
Au Coin de Tachikawa



なにしろ、このマスク。シビレない
ご婦人がいたらアブノーマルです。
しかもジカに会えるのですからねえ。



浩二スマイルで、エスプリに
富んだ独特のトークが当日の
目玉



代表作というわけではない。題して
「すみれ」。ルリ子に似てるとの評も。

秋です。美術です。浩二です。



「この坊やの将来のため」
「ほくのサイン
なんてせんか...」



じょうだんの一つも言
いながらスラスラッと
走らせるベンのお乗車。

画家・石坂浩二さんのご登場で
あります。画伯の作風は二科展な
どでおなじみ、妖艶な女を描かせ
たら右にでる者は…。作品もさる
ことながら、画伯その人の人気た
るや只今沸騰中、そもそも画家の
サイン会というのも珍しい。会場
のWILL7階には早くもクロヤマ
マのヒトダカリ。押すな押すなの
パニック状態、会場を9階に移し
て、どうにかこうにか。ひと目で
いいからコージさんを見たい、と。
ちなみに画伯は俳優も兼ねておら
れ、加えて近ごろ物価推測という
異才にも世の注目をあびている。



「あら奥さま、あの方俳優かとばっかし
思ってたわ」「実は、あたしも...」

トークあり、サインありの中で
シツギオートーのサービスも。



同じ二科展仲間の長濱正雄さん
(WILL社長)となごやかな懇談も。